

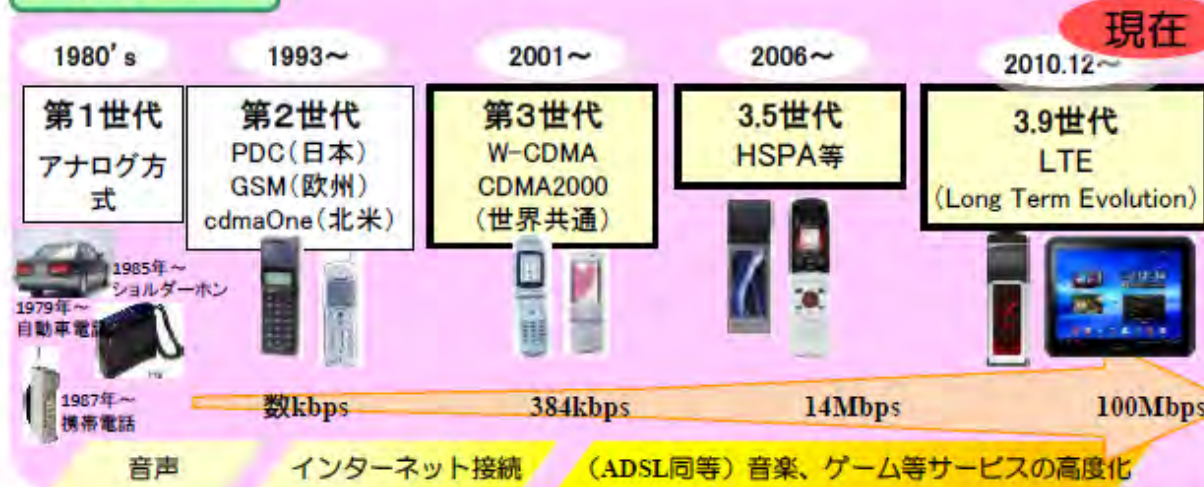
携帯電話システムの進化、技術動向 (総務省資料)

携帯電話等の進化

携帯電話の発展と今後の展開

モビリティ・通信品質等に優れた携帯電話系システムと、高速性・コスト面等で先行する無線LAN系の双方のシステムが各々発展してきており、両者の特色をとりこみつつ、新たな移動通信システムの検討が進展。

携帯電話



無線アクセス

無線LAN

広域化
モバイル化

広帯域移動無線アクセス(BWA)システム
XGP、モバイルWiMAX

高度BWA
AXGP
WiMAX R2.1

(20~40Mbps)

(100Mbps)

2000年

2005年

2010年

2015年

グローバル標準に準拠したシステム

- LTEは、国際的な3GPP技術仕様に準拠
- グローバル標準に準拠する共通機器のメリット
 - 規模の経済性
 - 国際ローミング

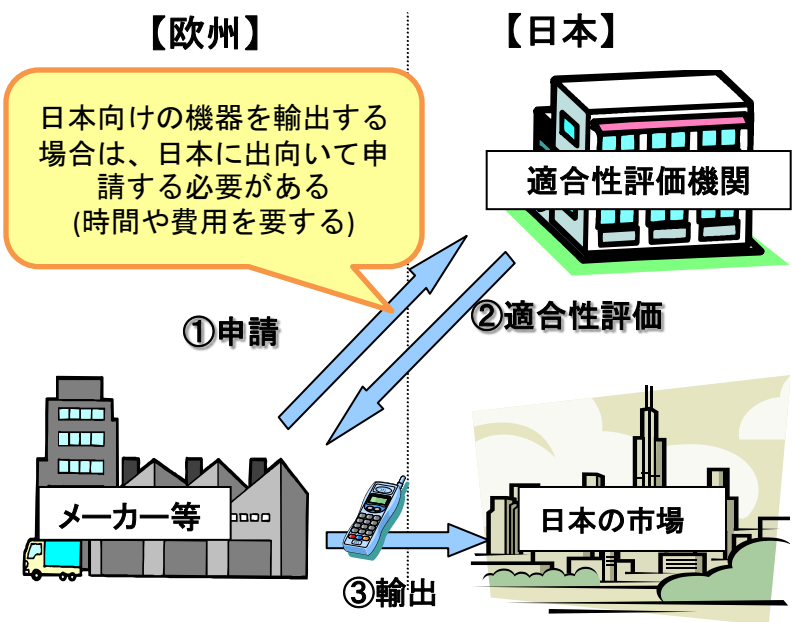


EUROPEAN BUSINESS COUNCIL IN JAPAN
THE EUROPEAN (EU) CHAMBER OF COMMERCE IN JAPAN

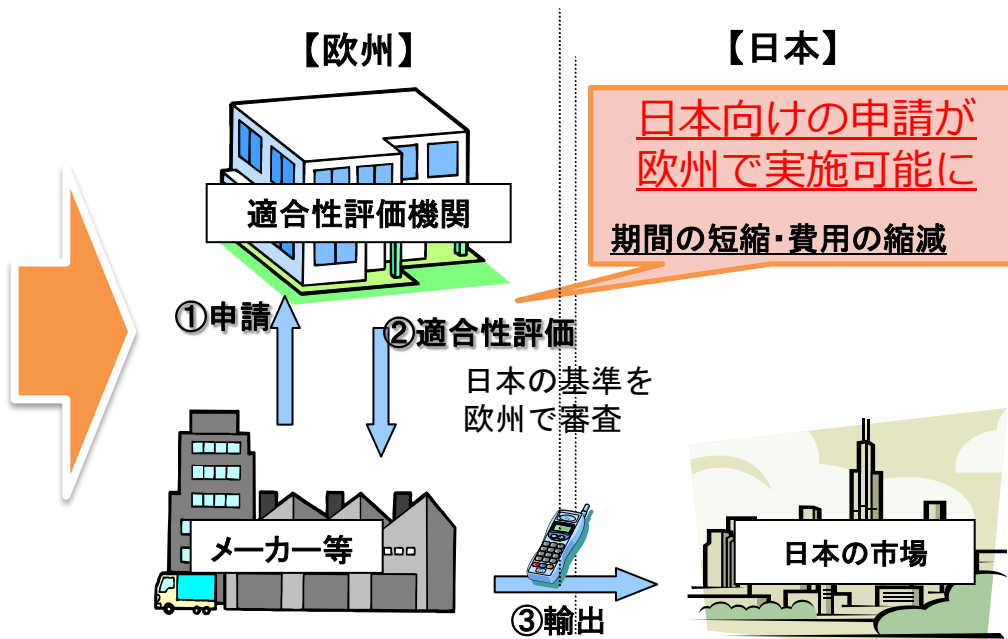
相互承認協定(MRA) (総務省資料をベースに作成)

相互承認協定(MRA): 電気通信機器の技術基準への適合性評価の結果を日本国と外国との間で相互に受け入れる制度

MRA実施前



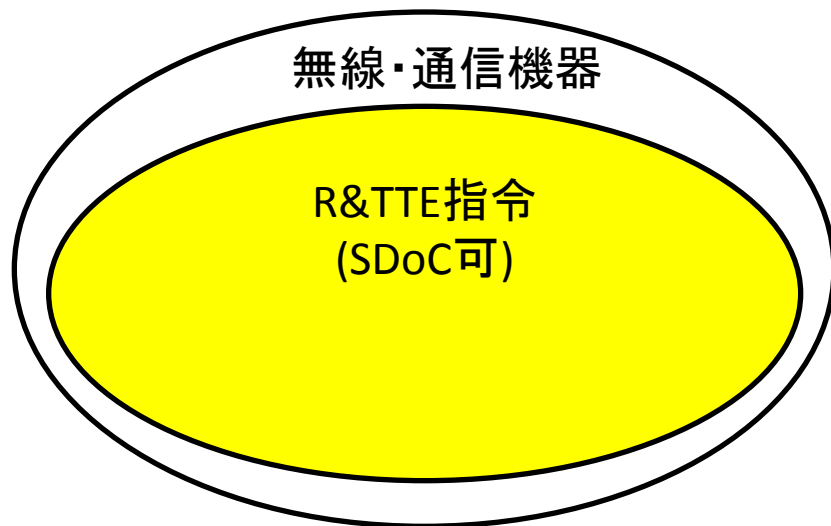
MRA実施後



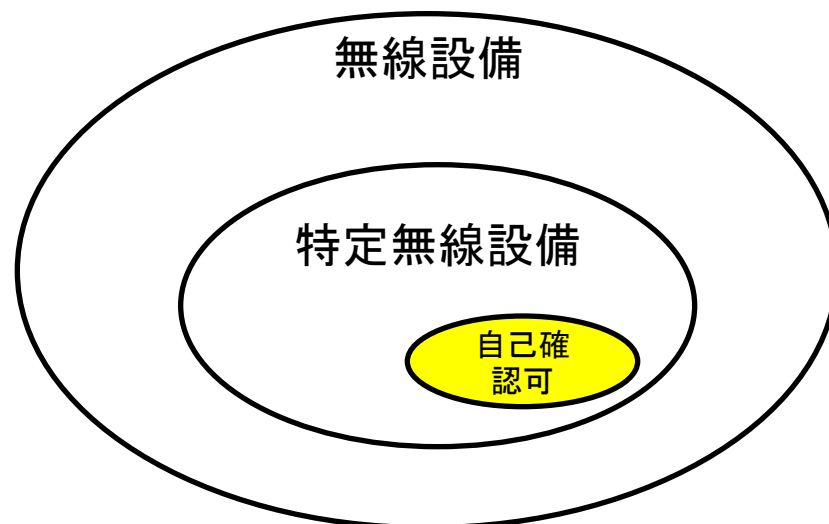
- 現状のMRAでは、メーカーは欧州および日本の適合性評価をそれぞれ別に受け必要がある。
- 最初の段階として、1つの申請で欧州、日本向け承認を可能とするべき。
- 最終的には、SDoC(供給者適合宣言)を受け入れるべき。

技術基準適合自己確認の適用拡大

欧州



日本



- 自己確認制度が可能な機器は、携帯端末等に限られている(24種別)
- 自己確認制度が可能な機器を携帯基地局等にも拡大するべき。

R&TTE : Radio and Telecommunications Terminal Equipment Directive
SDoC : Self Declaration of Conformity



EUROPEAN BUSINESS COUNCIL IN JAPAN
THE EUROPEAN (EU) CHAMBER OF COMMERCE IN JAPAN

まとめ

- 相互承認協定(MRA)
 - 1つの申請で欧州、日本向け承認を可能とするべき。
 - SDoC(供給者適合宣言)を受け入れるべき。
- 技術基準適合自己確認の適用を拡大すべき。

